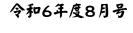
## 令和6年度 日置市立日吉学園

立志 反愛 克己 やさしく かしこく たくましく









## 持続可能な平和な社会の実現のために

日吉学園 校長 松尾 明

8月11日の夜、第33回オリンピック競技 会パリ大会の閉会式が行われました。計 19 日 間の日程で行われた大会では、難民選手団を 含めた 200 以上もの国や地域から,約1万5 千人の選手が参加しました。

オリンピックは「平和の祭典」と言われま す。今、まさに8月28日からパラリンピック が始まろうとしているこの時に、世界では戦 争をしている国や地域があります。

どのような戦争かと言うと「ウクライナと ロシア」、「アラブ人とユダヤ人」の戦争など、 「国と国(民族と民族)との戦争(外戦)」、 中東の「シリア」、「イエメン」、北アフリカの 「リビア」など、「国の中での戦争(内戦)」 です。

そして、これらの戦争をしている地域に4 億人以上の子供たちが住んでいると言われて います。この数字は、全世界の子供の数の6 分の1です。世界の6人に一人の子供が、今 日,食べるものがないかもしれない,自分の 家がない、学校にも行けない、自分や家族が 殺されるかもしれない、という中で生活をし ているということになります。

ところで, 世界が目指す持続可能な開発目 標(SDGs)の目標の一つに、「平和と公正を全 ての人々に」という目標があります。

持続可能な平和な社会の実現のために、ま ずは,「どんなことが今,世界で起きている のか」を知ることが大切なのだそうです。

そして, 学校教育での「歴史」の学習を通 して,過去に起こった紛争の原因やその被害 などの歴史を学ぶことも大切です。同じ過ち を繰り返さないよう意識することができるか らです。

そう考えていくと, 持続可能な平和な社会 の実現のためには、教育の役割は大きいので はないかと考えます。例えば、教育の機会で、 子供たちは「仲間づくり」についても学びま す。友達と触れ合う中で、自分とは違う意見 があった場合,ケンカをして解決するのでは なく, 話合いで解決することを学びます。こ ういうことから、「どうしたら、世界のみん なが平和に暮らすことができるか」を考える ヒントになります。

さて、オリンピックの話に戻ります。ビー チバレー競技 (女子) の決勝 (ブラジル VS カ ナダ)で起こったことです。第3セットの中 盤で、ブラジルとカナダの選手がネット越し に激しい口論を繰り広げました。審判が間に 入り、選手をなだめましたが、事態は収束し ません。両チームにイエローカードが出さ れ、場内に不穏な空気が漂いました。その瞬 間、DJが機転を利かせてジョン・レノンの 「イマジン」を流したのです。"愛と平和" の歌として世界中で親しまれるこの曲を聴 いて、選手たちの表情が一気に和らぎまし た。そして、観客もメロディーに乗せて大合 唱。騒動が収束し、試合は再開されたのです。

ご存知の通り,世界や日本を取り巻く安全 保障環境は、これまでにないほど厳しい状況 にあります。このような状況の中にあるから こそかもしれませんが, 先のビーチバレーボ ール競技の決勝戦での出来事は, 持続可能な 平和な社会の実現を願う私たちにヒントを 与えてくれたような気がします。

子供たちにも、「人はみんなきょうだいな んだ,みんなが世界を分かち合うんだ」と「想 像することが大切だ」ということを、私たち 大人が教え伝えていくことが大切なのかも しれません。そして、このことを、平和教育 の根幹に据えるべきなのではないか,と教育 者の一人として思うことでした。